

Again

～新たな出会いの下で～



建設地
宇和島市吉田町玉津

宇和島市吉田町とは

伊予吉田藩の伊達家が支配した土地である。
特に第一次産業が盛んな町である。
目の前の海では、ハマチや真珠などの養殖が行われ、海に面した山々では、ミカンの栽培が行われている。



海に浮かぶ養殖いかだ



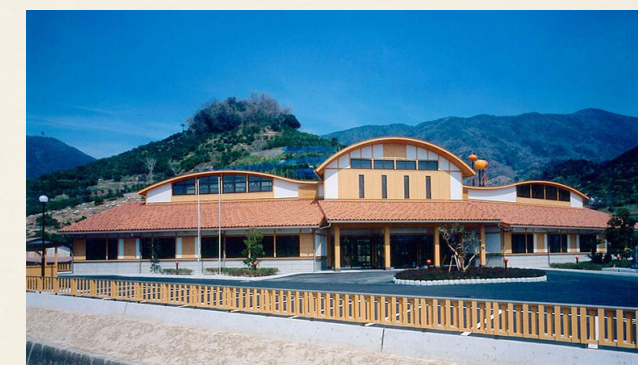
山々で栽培されるミカン

「吉田町の魅力」

- ・海と山に囲まれた自然
- ・みかんの生産
- ・養殖業が盛ん
- ・夕日がとても綺麗

玉津小学校周辺施設

- ・玉津保育園
- ・玉津公民館
- ・みかん研究所



敷地に隣接する果樹研究センター みかん研究所

Concept

今日の日本が抱える問題として、少子化があげられる。この問題は、私が18年間育った宇和島市吉田町も例外ではない。現在、吉田町には5つの小学校が存在するが、2025年春から新たな場所に1つの小学校として統合される。これにより、5校の廃校が生まれる。

今回は、その中の1校である、宇和島市立玉津小学校を再活用した、「複合型オフィス」の設計を提案する。

基本的な考え

「人々が集まる・繋がる・広がる・発信する」

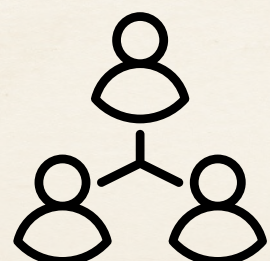
・サテライトオフィスと地域の施設を1つの建物内にまとめることで多くの人々が交流し、地域とのコミュニケーションがとれるように設計した。

・また、玉津地区以外の地区とも連携することで、利用者が吉田町についての魅力を感じる施設を目指している。

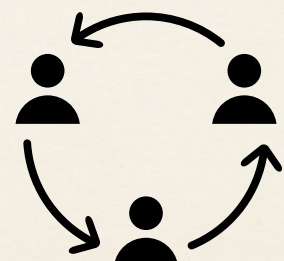
・ミカン農家との連携を行っていくことで、外から訪れる人への宣伝にもなり、町の魅力発信に繋がっていく。小学校の場合は子供が集まっていたが、今回の複合型オフィスでは、地域外の人を集めることに変化する。



人々が集まる



繋がる → 広がる



発信する

少子化の現状

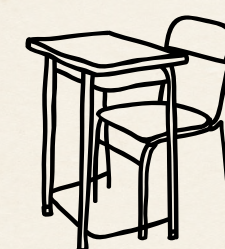
原因として、出生率の低下があげられる。日本の出生率は世界的にも低い水準にある。少子化の影響により、全国では毎年約450校程度が廃校になっている。今後も少子化は続き必然的に「廃校」は多く生まれていくというのは誰もが分かることだ。小中学校、高校の廃校や統廃合が、全国的に発生している。そのため、多くの地方自治体で廃校の活用方法の模索が進んでいる。

この「Again」は、活用方法の一つとして提案する。



廃校に対する日本の姿勢

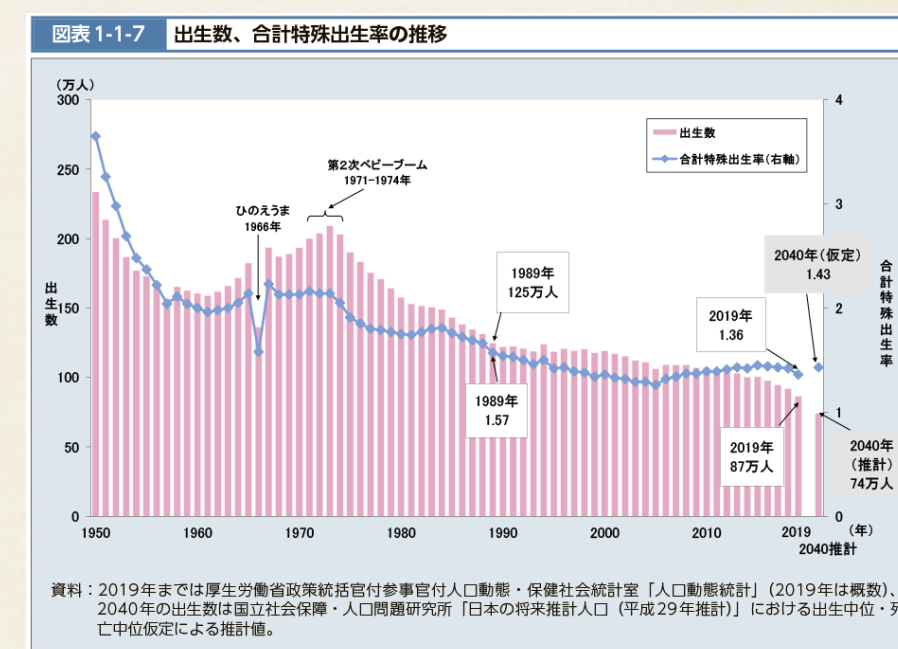
国、文部科学省も廃校施設の活用を推進している。
「みんなの廃校プロジェクト」として廃校の活用を進めている。
特に、廃校が生まれるのは、都市部から離れた地方において廃校が多く生まれている。



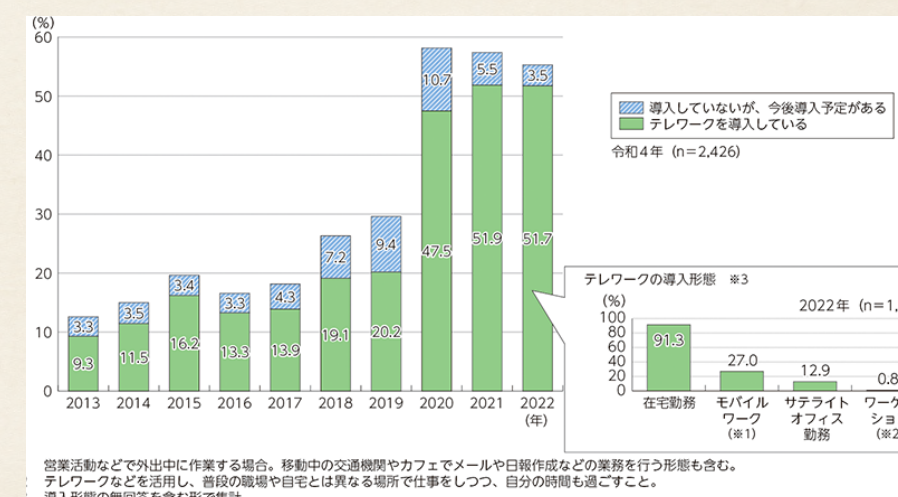
テレワークの普及

パンデミックによって、テレワークの普及が拡大した。そして、多くの企業でテレワークが推進されることにより、インターネットさえあれば、オフィス以外の場所でも仕事ができる。

サテライトオフィスを利用することによって、今まで知らなかった土地や文化を体感しながら、働くことになる。



日本の出生率



テレワークの導入について

1階～3階図面

3階

2階

1階

サテライトオフィス

既存の教室間の壁を解体撤去し、可動式の棚で部屋を仕切ること、大きな空間や小さな空間にも柔軟に対応できるようになっている。

体験学習・宿泊共有スペース

宿泊者同士で会話をし、コミュニケーションや出会いの場となる。
また、体験学習等を行う場所にする事で、地域外の人を呼び込む場にもなる。

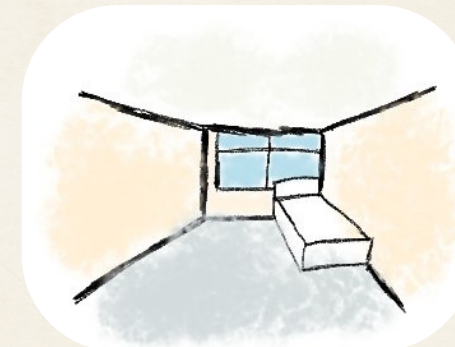
みかん学習・郷土学習スペース

みかんや郷土についての資料を常設展示している。
隣接するみかん研究所より講師を呼んでのみかん学習や地元有識者を招いての郷土学習を定期的で開催する。
みかんについての知識を深め、郷土愛を育む場となる。



宿泊施設

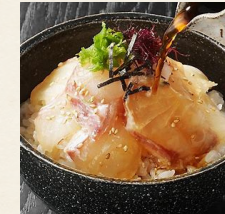
宿泊には、カプセルホテル型の部屋と1人用個室、大人数の宿泊ができる部屋の3種類の部屋がある。
他の宿泊者と近距離で接することで生まれるコミュニティーを狙い設計した。



↑ 1人用個室イメージ

レストラン

地元地域の食材を使用した、レストランを運営する。
地産地消とした料理を提供することにより、地元の漁師が獲った海鮮類や農家さんの育てた野菜、柑橘等に付加価値をつけていく。
地元の農家さんと利用者が繋がる場になっていく。



玉津公民館

隣接している現在の玉津公民館は、統合についての話し合いの議事録の中で、耐震基準に達してない。との記載があった。
そこで、玉津小学校内に新たに公民館施設を新設する。

「災害の記憶」(災害展示室)

宇和島市吉田町では、2017年7月西日本豪雨災害に見舞われた。その記憶を薄れさせないために、災害の展示を行うスペースを設けた。時間とともに、災害の爪痕は修復され、元の生活に戻りつつある。また、吉田町では県下で最も多い死亡者を出してしまった。この事実を二度と繰り返させないためにも災害の展示を行い、住民の危機意識を薄れさせない。

屋内空間の構成

- ・1階にレストランを設けることで、地域の方も利用しやすく地域の居場所にもなる。
- ・教室や廊下等で使われていた素材を残しておくことで、卒業生も母校を忘れることなく思い出に浸れることができる。
- ・基本的な構造を残しつつ、RC構造の特性を生かして大空間をつくりオフィスを自由に間取りを変更できるようにした。



施設に来る人

みかん山

地域の人

「施設利用者によるみかん狩り」

- ・施設利用者に「みかん農家」の仕事について、知る機会をつくる。農家の裏側を知ることによって生産者の苦勞などを知り、柑橘の消費促進を図っていく。

施設運営の基本理念

近年、少子化に伴い地方の活力や賑わいが薄れている。このような現状に対して、地方の地域単位の魅力アップが必要不可欠である。
そこで、廃校を活用し多くの地域外の人達が訪れることを第一目標としている。

最終目標

「再び町の活気を取り戻す」

防災拠点として

吉田町でも災害が発生しており、災害に備えた施設にすることが重要である。また、災害について学習する場を設けて、住民の危機意識を低下させないようにしていく。

オフィスへの転用

関東圏等の都市部に人口が集中しており、オフィスワーカーも多い。近年はテレワークが普及しており場所を問わず仕事ができる。そのため、地方で新鮮な気持ちで働くことができる。

地域の中心的存在

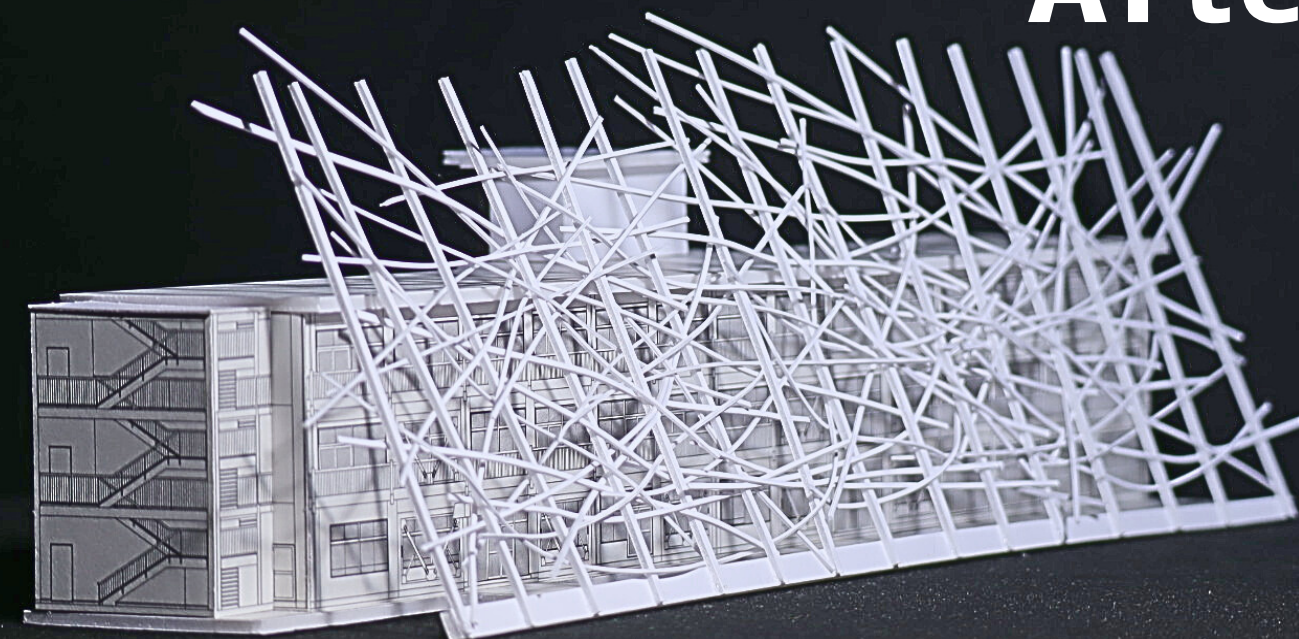
新たな町の中心として、賑わいを取り戻すべく施設を運営していく。ゆくゆくは、利用者が町を惚れ込み、移住することを目標としている。

外観の変遷

Before



After



外観のモチーフ



伊予吉田藩家紋

吉田町は、伊予吉田藩が治めた城下町だった。そこで、家紋からアイデアを得て竹や笹を使ったファサードとした。

竹は宇和海のリアス海岸のように不規則に配置し、竹の経年変化を感じられる。竹の交換を利用者同士でイベントのように実施することで横のつながりを生むことにつながる。

「竹害とは」

「竹害」管理不足によって竹林が荒れて、雑草のごとく増殖してしまう現象は「竹害（ちくがい）」と呼ばれている。そして竹がぐんぐん成長することで、太陽光が周囲の雑木に届かなくなり、枯らしている。そして雑木林は、竹藪に変わっていき、里山全体の植生が変わるだけでなく、根の浅い竹の地下茎によって地盤が弱くなることで、土砂崩れなどのリスクが高まってしまう。放置竹林が増加しているため、この建築が竹の消費拡大に向けて竹の巨大広告になることを目指す。

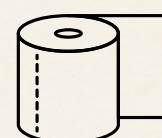


竹のメリット

- ・竹は他の樹木に比べ、成長スピードが早い
- ・成長スピードが早いので、環境を傷つけない
- ・竹紙で作られたトイレトーパーなど自然素材



「地球環境を守る」



「宇和島牛鬼祭り」

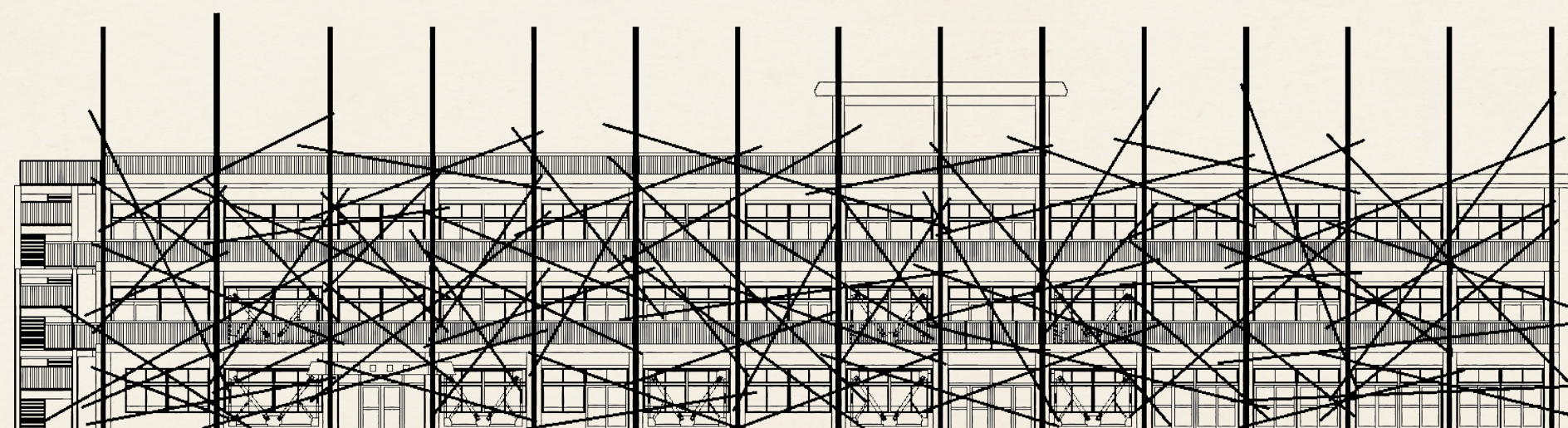
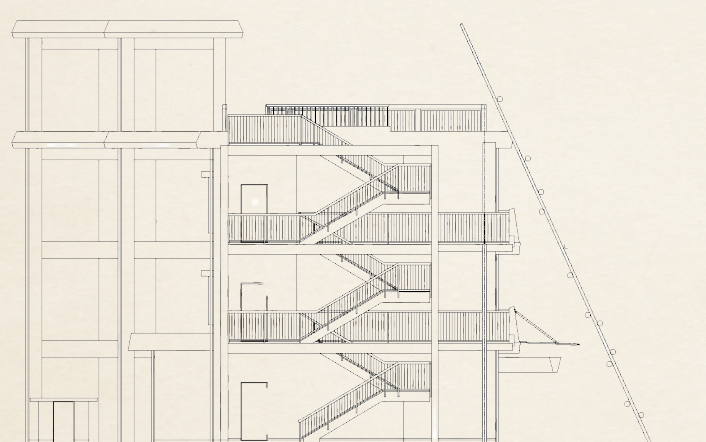
牛鬼の骨組みには、竹が使用されている。そのため、住民たちも竹の扱いに慣れており外観に使う材料でこの上ない身近な材料だと感じた。



- ・リアス海岸の、不規則さを竹で表現
- ・竹の交じり合いで、人と人の出会いの交錯を表している



←牛鬼の骨組み



屋上避難施設

屋上

オフィス

3階

宿泊施設・体験

2階

地域と外の人の交流を育む

1階

施設の構成

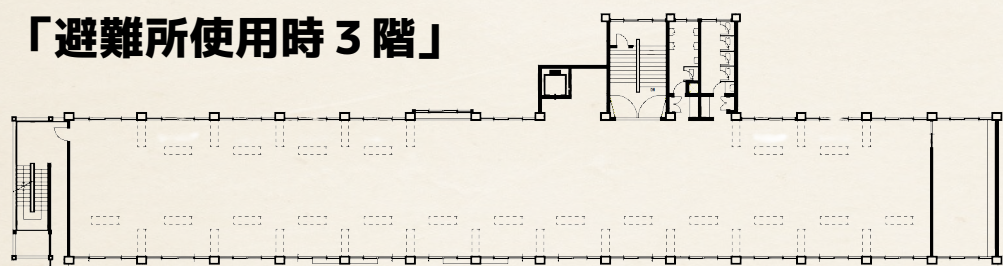
災害から学ぶ

私自身も西日本豪雨災害を経験しており、そこから災害に対する危機意識が高くなった。災害に対応した施設になればより快適な避難所生活になると思い設計した。



- ・現在の玉津小学校でも、災害用井戸水が設置されておることから災害への備えが伺える。

「避難所使用时 3 階」



- ・災害時の避難所として、3階オフィスの可動式棚を移動させることによって個人のプライバシーを守ることにつながる。また、自由に部屋のサイズを変更させることができるため、柔軟な避難所運営ができる。

運動場や体育館の利用

- ・新たな形で子どもたちの利用を進める
- ・子どもたちの遊べる場所としても使用する

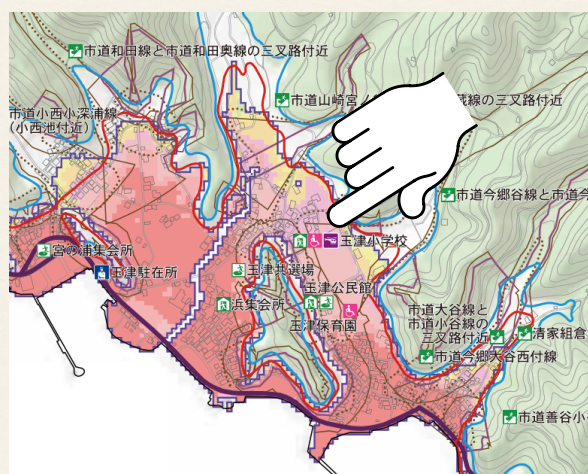
今年度2023年度から部活動の地域移行が始まった。そこで、部活動の実施にグラウンド・体育館を使用することで地域の人たちに子どもの声を届けることができる。また、県外のクラブチーム等の合宿施設として宣伝することで地域の情報発信にもつながっていく。



「西日本豪雨災害」



2017年西日本豪雨災害で吉田町は被災した。玉津地区では、多くの土砂崩れが発生しミカン園地で甚大な被害が発生した。土砂災害の被害によって、2017年愛媛県の柑橘収穫量は全国1位から2位へと順位を落とした。



小学校周辺は、南海トラフ巨大地震の際に津波の発生が予想されている。災害避難施設の役割をもっている。災害について住民に危機意識を持ってもらうためにも、この施設に求められるものは、大きい。



入浴施設「discover」

建設予定地



グラウンドの一部に入浴施設を設けて地域の人たちも利用でできるようにしている。入浴施設では、施設利用者も地域の人も入浴できるようになっている。そして、地域の人柄を肌で感じることができる。「裸の付き合い」のように、たくさんの人が集まって交流をする場となって新しい出会いによって人脈が広がり、心も体も暖まる空間になる。

「災害への対応」

- ・屋根には太陽温水器を設置し、地球の限りある資源を有効的に使っていく。
- ・災害時はプールの水を使って、入浴施設の水を供給する。
- ・薪を使ってお湯を沸かすことで、みかんの木の剪定で生まれる木を使い循環させる。

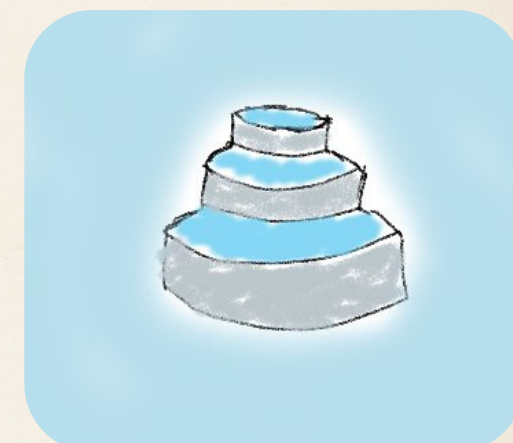


↑ 太陽温水器

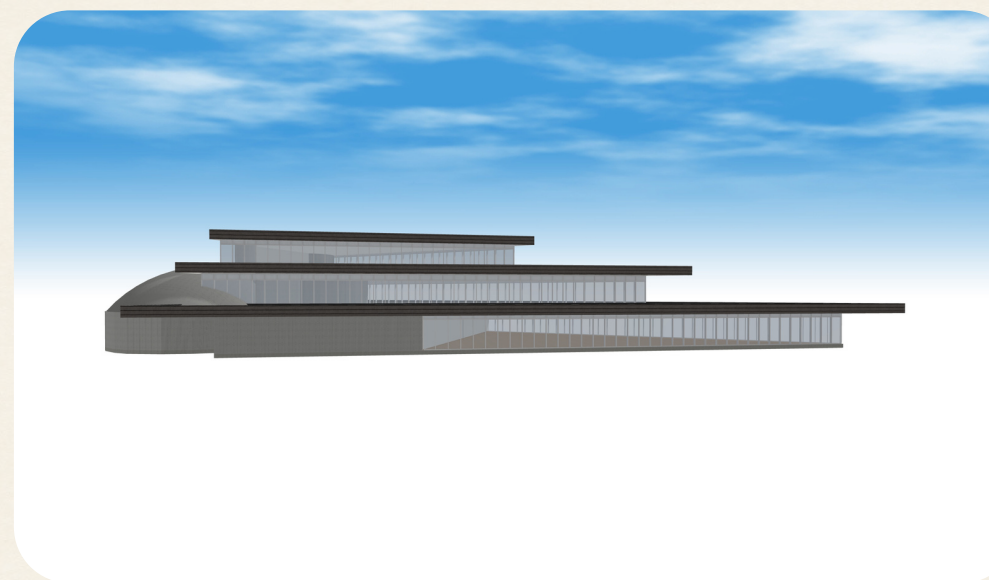
屋根アイデア



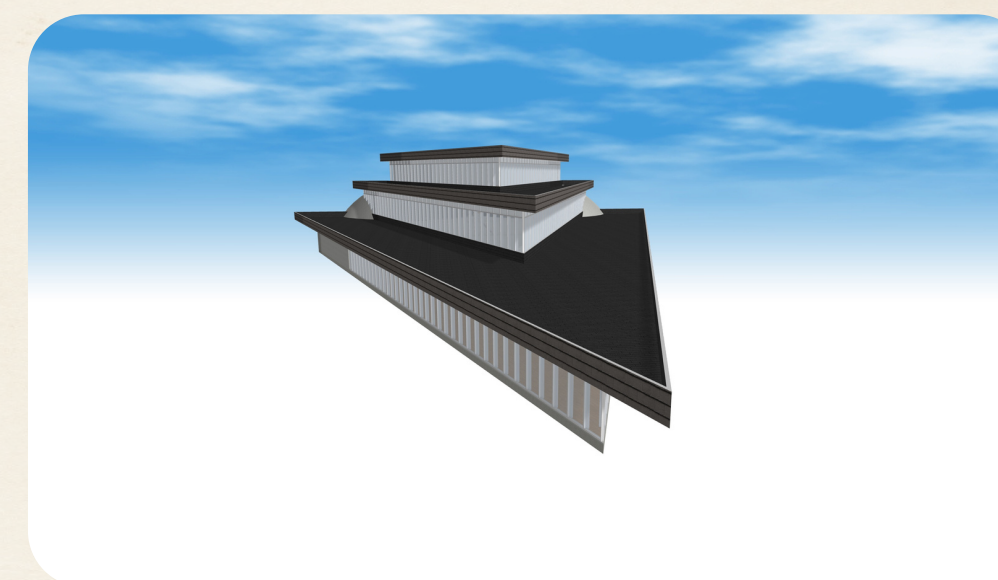
段々畑を着想を得て、屋根を段々の形にして景観にも住民にもなじむように設計した。また、浴槽に関しても段々にするようにすれば、一段ごとにお湯の温度が変わるようにしている。



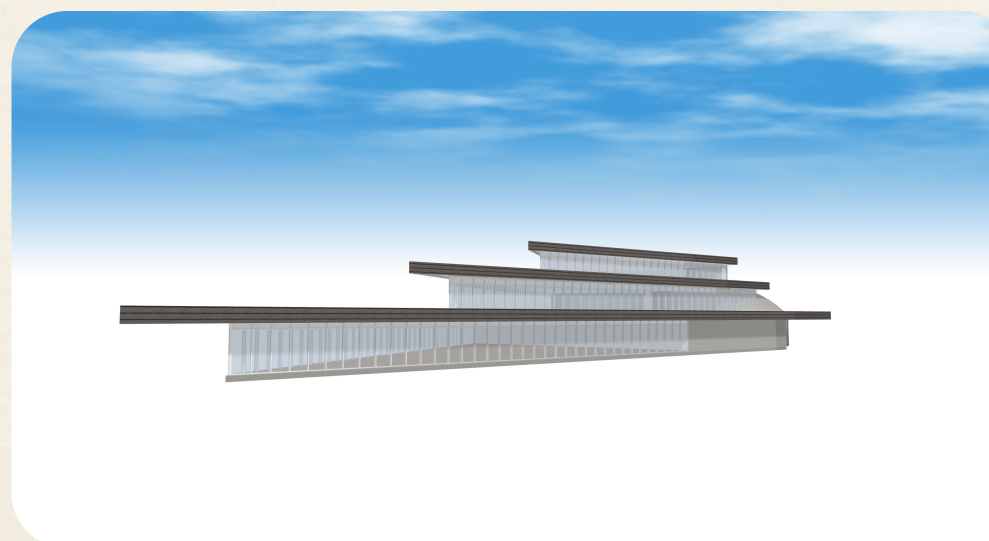
↑ 浴槽イメージ



↑ どこからでも外を眺められる



↑ みかん畑の段々畑をイメージ



↑ 景観に馴染む低層



↑ 三角の屋根は宇和海の波を表現